



社会福祉法人おおぞら会 広報紙

SSKP

はばただより

vol.150

地域の中に…

障害のある人たちが通う「アクティビティセンターはばたけ」は住宅街の中にあります。

近くには小中学校や児童館など公共の施設も多く、ゆるやかにつながりをもって皆さんとともに地域をつくっています。もちろん地域のイベントや防災訓練などにも参加しますが、

はばたけが近隣のみなさまの憩いの空間として地域に根づくように…私たち主催の

「はばたけ秋まつり」を今年度も開催しました！



よさこいのにぎやかな音色とともに始まったおまつり。今年は隣の中学校の芝生エリアも一部お借りしてポッチャ体験、車椅子体験（福祉車両見学）コーナーも新たに作りました。はばたけの中庭では美味しいアイスクリームやピリナカフェさんのスープ、「ぱぱん」のパンや工房時のお弁当など模擬店も大盛況！はばたけの事を以前から知って下さる方、初めて訪れて下さった方まで皆さんに楽しんでいただけるよう、手作り感のある創作を夏頃から準備し、ダンスも練習してきました。一人一人が何かに関わりながら協力して達成できた秋まつり。ご近所さん、ボランティアさん、さまざまな笑顔に触れ、“地域の中にある”はばたけを実感した一日となりました。（管理者 柴田信）



新しい年を迎えて…

社会福祉法人おおぞら会理事長 西原雄次郎

新年、明けましておめでとうございます。

読者の皆さま、いつもおおぞら会のことを気にかけて下さり、本当にありがとうございます。おおぞら会は、皆様のお支えを得て、新しい年を迎えることができました。心から感謝申し上げます。

昨年の11月はじめ頃から、日没後の何時間か、私の住む場所から東の空を見ると、明るい星が二つ見えることに気付きました。調べてみると、右側が土星で、左側が木星だと分かりました。それ以来、晴れた日には夜空を見て、「今夜も輝いているなあ」と確認するようになりました。眺めていると、「自分は同じ太陽系の地球という星の住人なんだなあ」とか、「この地球という星で、貴重な“いのち”をいただいている生物の群れの一員なんだなあ」などと、あらためて思うようになりました。この地球という星が、無限の宇宙空間に46億年前に誕生し……、と考えると気が遠くなってしまいます。

今、地球という星は、人間という生物によって徐々に生物の住めない星へと向かっているように思えて仕方ありません。平均気温が上昇し、北極圏の永久凍土が溶け出し、冰山がどんどん海に崩れ落ち、夏は猛烈に暑くなり、四季が感じられにくくなっている等などの気候変動、大雨・洪水、ドカ雪……一つ一つが地球の悲鳴のように聴こえてくるのです。

人間は、この地球という貴重な星を、その自然活動の範囲を大きく超えずに「使わせていただく」ことを真剣に考えないと、何代か先の子孫たちが悲慘な目に合わせられると思えて仕方ありません。今、私たちは、宗教や民族や思想信条や「領土」等などで争っている場合ではないと思うのです。話し合いと妥協によって、互いの違いを尊重し、「この地球を使わせていただいている生物の一員として、力を合わせる」という姿勢が必要なのではないでしょうか。特に政治家の方々に、一般の私たちよりも、身の回りことだけでなく、地球の未来を語ってほしいと願わざるをえません。(そんなことをしていたら、「票」を獲得できないと言われるかも知れませんが…)人間の知恵が問われていると思います。

おおぞら会は、日々、知的障がいのある人たち、認知症というハンディのある人たち、支援が必要な人たち、そしてその家族の方々が、地域の皆さまと関わりつつ、できるだけ「普通の暮らし」を続けられるよう、精一杯の支援を続けております。

残念ながら、私たちも「失敗」をすることもあります。でも、その失敗を繰り返さない努力も続けたいと思います。ゴールがあるわけではありませんが、昨日よりも今日、今日よりも明日、「より穏やかな実践」「よりよいと思える実践」を意識して続けていきたいと、職員一同念じております。

地球上の小さな小さな小さな営みですが、皆様に支えられて、力を合わせて、今年も頑張ります。



編集後記より…グループホーム交流会「みんなで乾杯！」

野ざきの家

【小規模多機能型居宅介護】

三鷹の介護福祉事業所にはネットワークがあり交流も盛んです。職員同士での学習の機会や地域に向けた行事をすることもあれば、地域の行事にも積極的に参加しています。そのひとつとして、毎年参加しているのが三鷹市民駅伝です。先ほどの名目もありますが、市内の他介護事業所の方とチームを組み襷をつないで走るのが、ただ楽しいというのも本音です。今年11月の駅伝でも私は4区アンカーを任せられ、沿道からたくさんの声援をいただき無事に襷をゴールに届けることができました。孤独に走るだけでは辛いですが声援が聞こえると力も沸いて「やっぱり人は一人では生きられないものだ」と感じます。介護事業のアピールが目的で始めた駅伝参加ですが、走ることが楽しいと思えた今では走ることが日常となり、市民駅伝は私の一年の大きな目標となっています。前年の記録を更新する、そのために日々トレーニングする。目標のために習慣ができ、続けることができています。そんな自分をちょっとほめてあげたい気持ちです。



「認知症にやさしいまち三鷹」を背負って…

私の中で最近「ハードワーク」という言葉を意識して生活しています。自分を律する、奮い立たせる意味で使っているのですが、あまりにも言い過ぎるようで他職員からは失笑です。ハードワークという言葉は、ともすると「働きすぎ」「がんばりすぎ」という意味としてマイナスに捉えられますが、何かに向かって何かのために一生懸命にハードワークすること、それは大事なことでとてもっと表現していいことに思えます。利用者の「〇〇したい」という思い、願いが達成できるよう一緒に考え、よりそい、見守り、実践する。「いつまでも自分らしく、ありのまま」という野ざきの家が掲げている理念に向かっていくことに、それぞれがハードワークすることが大切です。それは、自分のキャパを超えて無理をするということではなく、それぞれが自分なりの目標を持ち、それに向かい自分の持っている力を発揮するということです。

居宅支援の現場は日々、刻々と変わる状況に臨機応変に対応することが必要です。そのときの課題に向かって、ひとりひとりの差はあれどそれぞれが全力で向き合い、互いの

「ハードワーク」を認め合える、そんな職員集団を築いていきたいと思っています。

(管理者 齋藤貴彦)

この便りを読んで「私も何か始めようかな」「もうちょっと出来ることあるかな」なんて今年の目標を立ててくれる方がいたら嬉しいです。仕事でもプライベートでもなんでもいいので目標をもって日々「自分らしく」を目指し、自分を愛してあげましょう。



工房 時【就労継続B型】

工房時では、自家製面のうどん屋「おもむく食堂」、
焼き菓子などの製造販売をしています！

…詳しくはHPをご覧ください…

ようやく世の中も通常の動きを取り戻して、コロナ以前にやっていた販売活動などもほぼ同様に行うことができた一年。昨年度はまだ売上も回復しきっておらず、今期は所員の皆さんの夏ボーナスの支給ができませんでした。1年みんなで頑張った結果、ようやく冬ボーナスは支給することができました。製品や店舗の売上が思うように伸びなかったり、食材や光熱費の高騰の影響があったり…工賃の支給という面ではかなり大変な状況が数年にわたり続いてきましたが、ようやく少し明るい光が見え始めたかなと感じています。

就労継続支援B型は生産活動の規模が基本報酬に直結するという特徴があり、高い工賃額を実現するほど比例して運営収入が増加する建付けになっています。工房時は設立当初から現在まで、複数の作業項目を用意し、できるだけ皆さんの希望に応じた選択制（やってみたい！を支援する）という試みをしてきました。また、食品関連中心の作業構成にすることで外部との接点を増やす（おいしいでつながる）といったことも考えながら活動してきました。一方で工賃については、工房時の実績は残念ながら東京都の平均を下回る状況が長年続いています。



働くことの意味を考えると、高い工賃を目指すことも重要ですが、チームの中で各々の役割が与えられたり、それをこなすことで褒められ評価されたり、お互いにたたえ合える職場の空気感があったり、お客さまから「おいしかったよ！」と直接言われたり…といった、達成感や充実感を味わう場面をたくさん作っていくことも同じくらい大切な事ではないかと思います。



やりがいのある作業を提供するために、報酬改定や社会的な人材不足の影響も受ける中で、持続可能な事業の在り方とは？という議論を始めています。作業部門の再編にも着手する必要があるかもしれません。これから先を考えるにあたり「事業所として何をを目指すのか」という核の部分を変えて固めることがますます重要になっています。なかなか難しい課題ではありますが、よりよい工房時を思い描いていきたいと思っています。

（管理者 中野昭精）

サポートネットあすは 《移動支援・同行援護・行動援護・居宅介護事業》

利用者の日常に必要な買い物や通院に付き添う、または一人で出かけることが難しい場所に一緒にお出かけして休日を楽しむ…『移動支援(ガイドヘルプ)』の一般的なイメージはこのようなものかと思います。しかし、“行動障害”の強い方にとっての移動支援は少し様子が異なります。今回は 4 月から担当するようになった A さんのお話。ご家族からも、もっと知ってほしいとの思いで写真も含め掲載にご協力いただきました。

行動障害の強い A さんには、常時職員 2 人態勢(行動援護)で支援に入りますが、外へ出るときは A さんを真ん中にして左右に支援者がつき、両側から腕をしっかりと組みながら歩きます。自由に動きたい A さんは、当然ですが腕を振りほどこたくなります。私は担当当初、思わずもう一人の職員に「ここまですないとダメですか？」と聞きました。ペアを組んだ職員は「A さんを守ることにもつながっているのですね。つらいですけどね」と言っていました。

A さんは、消化しきれない「こうじゃない!」「違う!」と言う思いやストレスに加え、例えば赤ちゃんの泣き声などの外的要因が重なるとスイッチが入ったかのように人が変わり、突発的に近くにいる人に危害を加えてしまう「他害」行為をしてしまうことがあります。もちろん A さんはそうしたいわけではなく、わかいらぬこと、苦しい状況を何とかしたくて助けてほしくて人に向かってしまうのですが、結果的に周囲の人が怪我をしかねないような行動に発展する可能性もあるため、A さんにつく支援者は毎度かなりの緊張感を持って全力で、必死にサポートします。いつどこで何に引っ掛かりを持ってしまうのかはまだまだ分からないためです。それでも、少しずつ外へ出て、社会に触れ、人に慣れ、楽しいを感じられるようにしたい、それが A さんの安定につながると信じ、ご家族を始め A さんに関わる皆で、A さんの社会生活をサポートしているのです。

A さんの外出は、長時間の外出ではなく基本的に施設を拠点にします。近隣散策をしながらコンビニでお昼やおやつを買いに外出し、また施設へと戻ります。それを何度か繰り返します。4 月以降 A さんと少しずつ関係性を築いていき、私という存在をそろそろ認識してもらったかなというタイミングで、【横並び・腕がっちり】の散策から、

【前後 3 列並び・腕フリー】の散策へと時々変え、歩く距離や回数を増やしています。A さんのペースで街を歩きながら、少しでも「自由」な空気を感じてもらえたら良いなと思います。本来人懐っこくて愛嬌があり、自分の要求を短い言葉(単語)で伝えることのできる A さんの強みは、他にもたくさんありそうです。その強みを探っていきながら、A さんの休日の過ごし方が去年よりも少し広がっていることを願います。



サポートネットあすは
管理者 南川 雄造

あすは Kids

《放課後等デイサービス事業》

放課後デイサービスは、いわゆる学童と似た学童期の子どもたちの「放課後の居場所」。毎日かわるがわるやってくる子どもたちをどう受け入れ、どんな場として育んでいるのか、今回は、あすは kids が大事にしていることをお話ししたいと思います。

対話をする

『公園で遊びたい』『おやつはコンビニで買いたい』…子どもたちの希望やその日の様子によって、元々の予定はあってもその都度活動内容を再検討します。“雨なのに公園いきたい”など、全てが叶うわけではないですが、子どもの意見を尊重しながら『今日は、あすはの中で遊んで来週いこう』『高架下の公園で少し遊ぶだけでもいい?』など、一緒に妥協点を見つける過程を大事にしています。



なかまを感じる

Aさんが職員におやつを袋を開けてほしいと言ってきました。職員はそのまま開けてあげるのではなくそれができるBさんに『Aさんのおやつ開けてあげて』と橋渡し。『わかった!』と言って開けてくれました。それをAさんが手に取るとBさんに『ありがとう』とひと言。お互いの理解や自発的な関わりが難しい中でも、ちょっとしたことで互いを感じ関わるができるようになりますよね。



社会への一歩によりそう

おやつをコンビニに買いに行ったとき、レジに行くのを躊躇していたCさん。別の日にも何回かチャレンジしたら、ついに自分からレジに品物を持って行ってひとりで買い物をする事ができました。職員が『すごいね』という『にー』と言いながら笑顔で返事をしてくれました。初めての事は誰でも緊張するし怖いものです。焦らず見守り、そっと後押し。やってみること、そして『できた』という成功体験を共有することは次の一歩の自信になります。



そしてなにより…あすはを楽しく遊んでもらう!

あすは kids が一番大切にしていることです。あすはでの活動が明日への活力になるよう、子どもたちの笑顔をたくさんつくっていくことが何より大事です。

(児童指導員 渡邊 智博)

おおぞら会後援会ニュース

会費
ご寄附のお礼

新年あけましておめでとうございます。

旧年中もみなさまには大変お世話になりました。日頃より、法人ならびに後援会にお力添えをありがとうございます。

社会の在り方が急速に変わるような時代において、多様な介護・福祉サービスの存在はセーフティネットとしてますます重要な役割を果たすこととなります。会員の皆様におかれましては、今までと変わらぬご理解とご協力、ご支援をいただきますよう宜しくお願い申し上げます。

社会福祉法人おおぞら会後援会
会長 吉野 壽夫

会費・ご寄付 ありがとうございます (令和 6 年 6 月 1 日～令和 6 年 11 月 30 日集約分)

★会費のご納入 (敬称略)

個人83名、団体2社より会費の納入をいただきました。

★後援会へご寄附 (敬称略)

個人7名、団体2社より、後援会へご寄附をいただきました。ありがとうございました。

法人・各事業所へご寄附 (敬称略)

西個人12名、団体1社よりご寄附を頂きました。ありがとうございました。

ご寄附は大切に使用させていただきます。

みなさま、ありがとうございます。

後援会へご入会・ご更新をお願いいたします

年会費 個人…2,000円 団体…10,000円

年会費は、お手数ですが直接お持ちいただくか

下記の口座にお振込みください

郵便口座 00160-0-39163

※加入は任意です。 口座名義: 社会福祉法人おおぞら会後援会

年会費は法人運営を応援し、法人の活動を地域に広めるため大切に使用させていただきます。
はばただよりの発送に際し、振込用紙を同封させていただいております。

(入会・更新済みの場合も同封しておりますことをご了承ください)

information

支援スタッフ募集！

採用条件、労働条件等の詳細については、おおぞら会本部へ直接お問い合わせいただくか、東京都福祉人材センターのホームページ、または「ジョブメドレー」などのサイトで検索してご確認できます。

人と関わるのが好きな方
タフでガッツのある方
大歓迎です！



短時間や夜間帯のお仕事で週1回から始められます

グループホーム(知的障害・身体障害)

宿直夜勤(16:00～翌10:00) ＊泊まり手当がつきます
早番(7:00～10:30)、遅番(15:00～20:00)

〔業務内容〕 身体介助、家事全般、見守り支援等

…それぞれ活躍できる現場があります！

法人のこと、施設のこと…わからなくて迷っている方は、
まずは見学からどうぞ。

おおぞら会本部

0422-30-5571 (中野) まで

働き方いろいろ

正規職員・契約職員(常勤)
パート職員・アルバイト



社会福祉法人おおぞら会

- | | | |
|---|----------------|------------------|
| ・ アクティビティセンターはばたけ (生活介護事業) | 三鷹市野崎 3-17-9 | tel 0422-32-3234 |
| ・ 工房時 (就労移行事業・就労継続B型) | 三鷹市野崎 2-6-41 | tel 0422-30-5571 |
| ・ 野さきの家 (小規模多機能型居宅介護事業) | 三鷹市野崎 2-6-41 | tel 0422-30-5575 |
| ・ サポートネットあすは (移動支援[居宅介護]事業) | 武蔵野市八幡町 3-3-26 | tel 0422-36-5151 |
| ・ あすは Kids (放課後等デイサービス) | 武蔵野市八幡町 3-3-26 | tel 0422-36-5151 |
| ・ つなぐなかまの家・さくらハイツ・つむぎの家 (共同生活援助) | | tel 0422-26-1320 |

先日、おおぞら会のグループホーム4ユニットみんなで集う「グループホーム交流会」を行った。コロナ禍に入る直前に行って以来、何度かのコロナ感染クラスターや職員の入れ替わりがあり、なかなか再開できなかったホーム全体としての唯一にして最大の行事だ。私が管理者になった当初、同じ法人内でともに暮らしの場で生活する仲間同士、年に一度くらい集う機会があったら…と考えた企画であったが、2度目の開催に4年の月日を要してしまった。それでも利用者みなさんは前回の会をととても思い出深く記憶に留めていて、再開を楽しみに待っていてくれた。もちろん同じ通所施設で毎日会うメンバーもいるのだが、一般就労している人や違う施設に通う人たちもいるので、「ホームのなかま」として集う場はまた違う「わ」がある。自分が暮らしの主人公としてみんなの前で近況報告をする姿は誇らしく、お話が難しい方の他己紹介でも互いを認め合っている様子にしみじみ。少し緊張しつつ居室の訪問をする姿も微笑ましい。やっぱりどんなに大変でも毎年開催しなくては…とあらためて感じた一日だった。(いりくらあきこ)

発行 障害者団体定期刊行物協会 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102 (頒価 50円)

企画・編集 社会福祉法人おおぞら会 編集責任者:入倉暁子